令和６年度

東北公益文科大学　地域共創センター事業報告

東北公益文科大学
Tohoku University of Community Service and Science

目次　　＜ページ＞

令和 6 年度地域共創センターの活動	1
地域共創センター活動状況	5
事業報告書（ヒアリング及びマッチング事業)	7
（公益教養プログラム FORUM21）	11
（教養講座共創カフェ）	20
（学生活動支援）	23
（サービスラーニング支援事業）	30
（地方創生に向けた人材育成事業「ハタラクカタチ」）	33
受託事業・補助事業の報告	34
発行物のご案内	37
新聞記事	38

令和 6 年度地域共創センターの事業は
庄内開発協議会「公益のふるさとづくり活動補助金」
の助成を受けて行いました

令和６年度　地域共創センター事業の概要

地域共創センター

センター長	吉村　昇
地域連携部会長	澤邉　みさ子
産学官連携部会長	青木　孝弘
デジタル人材育成部会	広瀬　雄二
防災・環境部会	呉　尚浩

(1) 地域共創センターの役割

令和２年度より地域共創センターの事業を更に拡大し、以下の４部会で活動している。

①地域連携部会

地域との共創の仕組み及び活動のノウハウを生かし、庄内の地域共創の拠点として行政や企業、地域の人々と公益大をつなぎ、社会・地域課題の解決に取り組む。

②産学官連携部会

大学と外部機関とのパートナー関係を構築し、産学官連携を推進する。

③デジタル人材育成部会

IT 技術を活用し、地域資源に新しい視点を創る研究を展開し、地域の文化を未来につなぐ人材育成に取り組む

④防災・環境部会

自治体、地域住民とともに、環境・防災教育の充実を図る。

(2) 地域連携部会の各種事業

①ヒアリングおよびマッチング事業

ヒアリングシートを用いて地域からのニーズを把握し、学内のシーズとの調整を行った。令和６年度は 97 件の依頼を受け付けた。マッチングが成立する各種事業、活動については必要に応じて地域共創センター職員及び地域連携部会員が実施、協力を行った。

②「公益教養プログラム FORUM21」、「教養講座共創カフェ」、等各種シンポジウムの開催

教職員、学生を対象に企画募集を行い、地域共創センター運営委員会での協議の上、令和６年度は「公益教養プログラム FORUM21」を８回開催した。また、学生主体で運営を行う「教養講座共創カフェ」を２回開催した。

③「学生活動支援助成金」、「まちづくりインターンシップ補助金」、「災害復興･地域防災活動支援助成金」の運営事業

「本学の活性化を目的とした学生による自主活動及び学生と地域との地域協働によるまちづくり活動」、「学生による災害復興・地域防災活動を支援するため、災害復興・地域防災に関する活動（被災地・避難者支援、地域防災活動など）」等に関する申請に対し、助成を行った。「酒田おもてなし隊」の新入生向け酒田ツアー、「日本酒同好会」の“美

酒県山形”での調査、「IVUSA 山形酒田クラブ」による庄内の海岸清掃活動など、6 件の活動へ助成を行った。また、令和 6 年 7 月山形県大雨災害を受け、学生・教職員延べ 220 名が泥出し等の復旧ボランティアに参加した。

④サービスラーニング支援事業

ハタラクカタチの記事作成のコツや相手に伝える文章の書き方について、「イト吉デザインラボ」の長谷川結氏をお迎えして講座を実施し、学びの場を提供した。

⑤地方創生にむけた人材育成事業

学生が庄内地域の企業を訪問・取材し、若者ならではの視点で地元企業の魅力や地域で働く先輩のライフスタイルを発信した。令和 6 年度は、5 社を訪問しインタビュー取材を実施した。また、庄内地区商工会広域連携協議会との共催で、庄内地域における若者の定着に向けた産学連携事業として「企業見学バスツアー」を開催し、ツアー体験レポートを作成した。記事をまとめ、冊子「ハタラクカタチ Vol.6」を発行し、本学学生への配布だけでなく、地元高校・近隣大学、商工会議所等へ配付・設置を依頼した。

⑥受託事業・補助事業

補助事業として「地域共創による公益のふるさとづくり推進事業（庄内開発協議会)」の採択を受けた。

⑦学生及び大学の地域活動等に関する発信事業

地域共創センターで支援を行っている学生の地域貢献活動、「公益教養プログラム FORUM21」、「教養講座共創カフェ」、その他委託事業等に関する情報を随時、大学のホームページ、地域共創センターの SNS（Instagram、Facebook、LINE)、地元市町の広報誌、山形県生涯学習センター「山形県生涯学習情報提供システム」等において発信した。特に SNS では令和 6 年度中に 157 件の投稿を行い積極的に発信した。令和 6 年度は印刷物として、冊子「ハタラクカタチ vol.6」、「地域共創センターパンフレット」を発行した。また、「ビジネスマッチ東北」へ出展し、大学の教育研究成果を発信した。

(3) 産学官連携部会の各種事業

①共同研究・受託研究に向けた産学官連携の推進

大学戦略推進室との間で産学官連携に関わる情報を共有し、受託研究に関わる内容は大学戦略推進室が所轄し、それ以外は産学官連携部会が担当することに体制を整理した。その上で、外部から連携の申し込みがあった際の作業手順を示すフローチャートを作成した。また、令和 5 年度に作成した産学官連携用のホームページを適宜更新して、教員の持つ研究シーズの発信に努めた。さらに教員の専門分野に関する動画配信を検討し、準備した。くわえて、研究マネジメント人材育成のための SD を大学戦略推進室と共同企画し、令和 6 年 9 月に会津大学特任教授石橋史朗氏を講師に迎えて、「戦略的産学連携の推進とリスクマネジメント」をテーマに実施した。

②大学と外部機関との新たなパートナーシップの構築に向けた検討と取り組みの発信

洋上風力発電に関する新たな戦略的パートナーシップの構築に向けた検討を行った。遊

佐町沖洋上風力事業では丸紅、関西電力などで構成する山形遊佐洋上風力合同会社が事業者として決定されたことに伴い、産学官部会では学内情報交換会を2回開催して、リスクマネジメントを考慮しながら、教職員での情報共有を図った。また令和6年7月に発足した遊佐町沖洋上風力産業振興プラットフォームにオブザーバーとして参加し、当地域の地方創生につながる研究・企画の検討を進めている。さらに、全国7大学と再エネ事業者で構成される産学連携洋上風力人材育成コンソーシアムと意見交換を行った。

③アントレプレナーシップ教育を通じた起業マインド人材の養成

本学の起ィ業研究所や、令和6年4月から開講の正課科目アントレプレナーシップ演習（春学期・秋学期）と連動しながら起業マインドを持つ人材の育成を推進してきた。同研究所の関わるシンポジウム・セミナーや、アントレプレナーシップ演習の講師として招聘した経済人との関係強化を通じ、県内外の起業家や起業支援に取り組む自治体、経済団体との幅広いネットワークを構築した。一連の取り組みの成果として学生の起業マインドが徐々に高まっており、ビジネスコンテストやビジネスピッチコンテスト（EO North Japan 南東北大会 NExT10、酒田市 SAKATA PROJECT DESIGNERS、長井市 DX コンテスト等）にて発表やプレゼンを行い、受賞する者も現れている。

（4）デジタル人材育成部会

①履修証明プログラムやオンライン活用等による市民向け講座を通じた自己啓発やリカレント教育の機会の提供

酒田市地域デジタル人材育成業務等委託事業のひとつ「IT に関する技術やアイディア、課題、疑問などを共有、解決するための誰もが参加できるイベントの開催」では、都合 5 回のイベントを開催し、天文学、GIS(地理情報システム活用技術)、機械学習基礎、IoT テクノロジなどについての講座を展開し幅広い層の受講者に体験と知見を提供した。

②本学を中心とした産学官の人材育成連携活動の活性化による地域で活躍する交流の拡大

人材育成連携活動においては、前年度に引き続き、公益大メディア情報コース学生と市内 IT 関連企業・プログラマー等との交流事業、および地元高校情報科生徒向けの「まるっと一日大学体験」を実施した。加えて、令和6年度には公益大と地元 IT 企業の連携によるプロジェクト(PJ)型応用演習科目が2年目を迎えた。前年度の履修者による満足感を聞いた学生が今年度多数履修応募し、定員内への選考の必要があるほどであった。この PJ 型科目では、市内 IT 企業の社員が酒田市サンロクと協力して講義内容を企画し、講師として参加することで、学生の就業意識と地元企業への親和性を向上させた。今年度は、授業内での提案プロジェクトのうち2件が高い評価を得て、授業終了後も実動プロジェクトとして関係者を集めて推進する運びとなり、産学官の連携が実を結ぶ機会が期待できる。

(5) 防災・環境部会

①自治体、地域住民と連携した環境・防災教育の充実

イ　防災

行政・専門家・島民・ジオガイドと連携しながら、飛島における防災・減災のあり方について、学習会・現地調査・報告会などを実施した。特に、プロジェクト型応用演習「防災の仕組みづくり」では、令和6年1月1日に発生した能登半島地震時における島民避難について、島民、旅館、マリンプラザ、とびしま総合センター、診療所などへのインタビュー調査を行い、避難行動記録をまとめ、改善策の提言をまとめた。また、公益財団法人オイスカによる宮城県名取市の海岸林再生プロジェクトの視察を実施した。

ロ　環境

公益大生を対象に、5 回目となる「海ごみ環境教育リーダー育成研修」を実施。また、第 24 回飛島クリーンアップ作戦に実行委員として参加（当日は公益大より 35 名参加)。美しいやまがたの海プラットフォーム、防災・環境部会などの共催で、「海岸漂着物対策検討ワークショップ」を実施し、海岸清潔度モニタリング調査及び実施判定をもとに、処理困難地区における今後の対策の進め方、新たなクリーンアップモデル事業、国への要望書提出などについて方針を検討した。その他、2021 年度にスタートした「RE:プロジェクト」（三川町中高生ボランティアサークル「来夢来人」、NPO 法人パートナーシップオフィス、IUVSA、SCOP 等と連携）において、継続して赤川河口海岸クリーンアップ作戦を実施。公益大生と㈱みなとの協働で、最上川右岸河川敷における ICC（国際海岸クリーンアップ）方式のゴミ調査と清掃活動を行った。SDGs 科目「海ごみ問題と循環型社会デザイン」報告会において、県の本庁・各支庁からの参加を得て、第 3 次山形県循環型社会形成推進計画へ対するアクションプラン、海ごみ啓発イベント企画案を提案した。また、海岸林整備活動として、万里の松原に親しむ会との協働で、酒田市主催「山をきれいにしてウォーキング」の関連行事参加（チップ敷きによる「芭蕉古道」の整備活動 、広葉樹植栽予定地見学)、Save the クロマツ 2024（庄内海岸のクロマツ林をたたえる会、山形大学農学部などと共催)、「自然環境の保全と共生」授業フィールドワークとして、飯森山の森林整備活動（参加者 160 名）を実施した。

令和 6 年度地域共創センター活動状況

No.	開催日	時間	タイトル名・テーマ等	会場	人数
1	4 月 24 日（水）	13:20～ 14:55	公益教養プログラム FORUM21 2023 年度秋学期　中期、長期留学告会	104 教室	10
2	5 月 20 日（月）	8:40～ 12:00	酒田まつり　山車行列参加（学生引率）	酒田まつり会場	100
3	6 月 5 日（水）	13:30～ 16:00	教養講座共創カフェ 公益大に散らばる宝物	中研修室 1 教育研究棟	13
4	6 月 22 日（土）	14:00～ 15:30	公益教養プログラム FORUM21 陰謀論やデマ・偽情報を考える	中研修室 1	21
5	7 月 9 日（火）	15:05～ 16:50	公益教養プログラム FORUM21 海から日本を守るということはどういうことか	104 教室	70
6	7 月 17 日（水）	15:15～ 16:45	サービスラーニング支援事業 ハタラクカタチプロジェクト取材の仕方講座	中研修室 3	9
7	8 月 16 日（金）	終日	令和 6 年 7 月大雨災害におけるボランティア活動	酒田市内	9
8	9 月 6 日（金）	終日	令和 6 年 7 月大雨災害におけるボランティア活動	酒田市内	19
9	9 月 13 日（金）	9:00～ 15:00	地元高校情報科生徒のメディア情報コース体験プログラム	中研修室 1 ほか	40
10	9 月 18 日（水）	終日	令和 6 年 7 月大雨災害におけるボランティア活動	酒田市内	7
11	10 月 2 日（水）	13:20～ 14:55	公益教養プログラム FORUM21 2024 年度春学期　短期留学報告会	104 教室	10
12	10 月 14 日（月）	10:00～ 12:00	伊藤園「やまがた景観物語『玉簾の滝』」へ参加 （豪雨災害ボランティア）	玉簾の滝	5
13	10 月 17 日（木）	18:30～ 20:00	SAKATA Tech Night #2401 スーパームーン観望会	図書館 オンライン	45 16
14	10 月 23 日（水）	18:30～ 20:00	公益教養プログラム FORUM21 歴史的街並みを未来へ繋ぐ―成功事例で見る保全の実践	中研修室 1	17
15	11 月 14 日（木）	10:00～ 17:00	ビジネスマッチ東北 2024 秋	夢メッセみやぎ	－
16	11 月 21 日（木）	18:30～ 20:00	公益教養プログラム FORUM21 英語多読で語彙力アップ　辞書を使わない英語学習	中研修室 1	60
17	12 月 11 日（水）	13:15～ 14:30	公益教養プログラム FORUM21 2024 年度　中期留学報告会	104 教室	10
18	12 月 14 日（土）	15:00～ 16:30	公益教養プログラム FORUM21 「アメリカ公民権運動」と「人間の意識向上の理念」の文学への投影	中研修室 1	19
19	12 月 23 日（月）	9:30～ 12:30	学生と酒田市内 IT 関連企業交流会	104 教室	30

No.	開催日	時間	タイトル名・テーマ等	会場	人数
20	1 月 15 日（水）	17:00～ 18:30	サービスラーニング支援事業 フリーライターに聞く！魅力を伝える文章の書き方講座	104 教室	9
21	1 月 26 日（日）	14:00～ 17:00	SAKATA Tech Night #2402 世界に向けて庄内の地図を作ろう	中研修室 1	4
22	1 月 28 日（火）	17:30～ 18:45	教養講座共創カフェ ジェンダーカード交流会	中研修室 2	9
23	2 月 3 日（月）	18:30～ 20:00	SAKATA Tech Night #2403 機械学習入門　手書き数字を見分けるシステムを作ろう	中研修室 1	11
24	2 月 13 日（木）	15:00～ 16:30	公益大と地元高等学校等との連携推進のための会議	中研修室 1	14
25	2 月 13 日（木）	18:30～ 20:00	SAKATA Tech Night #2404 IoT 活用セミナー	中研修室 3	4
26	2 月 14 日（金）	18:30～ 20:00	SAKATA Tech Night #2405 IoT 活用セミナー	中研修室 3	3
27	2 月 19 日（水） ～ 2 月 21 日（金）		後援会事業「一流体験」での学生引率	中研修室 2	15

ヒアリング及びマッチング事業

事業名	ヒアリング及びマッチング事業
目的	ヒアリングシートを用いて地域からのニーズを把握し、学内のシーズとの調整を行う。マッチングが成立する各種事業、活動については必要に応じて地域共創センター職員及び運営委員が実施協力を行う。

	ヒアリング内容	依頼・相談者
1	「星に語りて～Starry Sky～」の上映について	鶴岡市ボランティアセンター
2	グランピング施設への意見募集について	最上川芭蕉ライン観光
3	「山ときれいにしてウォーキング」への参加者募集	酒田市農林水産部農林水産課
4	「ボランティアスタッフ講習会」の実施について	山形県金峰少年自然の家
5	「野生植物の調査に興味がある若手人材の発掘と育成」の参加者募集	フロラ山形
6	「エンジョイ金峯山登山①」の参加者募集	山形県金峰少年自然の家
7	「エンジョイ鳥海山麓トレッキング」の参加者募集	山形県金峰少年自然の家
8	大学生ボランティア活動向け助成金制度「未来へのタスキ」について	東北労働金庫営業統括部
9	「第 70 回酒田市子どもまつり」のボランティア募集	酒田飽海更生保護女性会
10	大学生等サイバーパトローラーの募集	山形県警察本部
11	「第 50 回鶴岡市子どもまつり」のボランティア募集	鶴岡市ボランティアセンター
12	第 23 回「身近な川や水辺の健康診断」に係る参加者の募集	美しい山形・最上川フォーラム事務局
13	「美しいやまがたクリーンアップ・キャンペーン」の参加者の募集	美しい山形・最上川フォーラム事務局
14	山形県学生環境ボランティア「やまカボ・サポーター」募集	NPO 法人環境ネットやまがた
15	「酒田まつり山車行列」への参加募集について	酒田市地域創生部交流観光課
16	「親子ワクワクサタデー科学の実験を楽しもう」のボランティア募集	酒田市ボランティア・公益活動センター
17	山形県若者がつなぐ・つながる地域おこし推進事業費補助金について	山形県しあわせ子育て応援部多様性・女性若者活躍課
18	「夏休み宿題お手伝い教室」協力ボランティア募集	酒田市教育委員会社会教育課
19	大相撲尾花沢場所ボランティアスタッフ募集	尾花沢市総合政策課
20	「荘内大祭 夜音祭」学生ボランティア募集	荘内神社
21	写真（酒田まつり）の肖像権確認について	佐々木氏（酒田市在住）
22	鶴岡市大山児童館でのボランティア募集	鶴岡市ボランティアセンター
23	講演「障がい者が就労する上で大切なこと」聴講者募集	(有)スエヒロ みんなのそら
24	「新・庄内地域医療連携の会」について	(株)瀬尾医療連携事務所

	ヒアリング内容	依頼・相談者
25	「環境やまがた大賞」への推薦について	山形県環境エネルギー部 環境企画課
26	古民家利活用ワークショップについて	酒田市サンロク
27	「SAKATA PR 動画コンテスト in English」の開催について	酒田市市民部共生社会課
28	「光ヶ丘松林整備ボランティア」募集	山形県庄内総合支庁 産業経済部森林整備課
29	「しょうない氣龍祭」での龍の担ぎ手募集	庄内町商工観光課
30	「夏のボランティア体験 2024」の募集	酒田市ボランティア・公益活動センター
31	「山形県エシカルフェスタ」への学生（パネリスト）参加について	山形県防災くらし安心部 消費生活・地域安全課
32	「酒田リビングラボ」参加者募集	酒田市企画部企画調整課
33	赤川花火ボランティアスタッフの募集	赤川花火大会実行委員会
34	講演「不登校 発達障害の子どもの進路」の聴講者募集	(有)スエヒロ みんなのそら
35	「酒田の花火」ボランティアスタッフの募集	酒田の花火実行委員会
36	「遊佐町デジタル人材育成促進補助金」の周知について	遊佐町総務課
37	十坂小学校での学習ボランティアについて	酒田市立十坂小学校
38	若者「庄」学校　ボランティア募集	山形県庄内総合支庁 総務企画部総務課
39	映画「有り、触れた、未来」自主上映会の開催について	山形県青年の家
40	「未来を守る青少年防災フォーラム」の参加者募集	山形県青年の家
41	「みなとオアシスまつり」ボランティア募集	酒田市ボランティア・公益活動センター
42	「食の都庄内 サマースクール」ボランティア募集	山形県庄内総合支庁 産業経済部地域産業経済課
43	山形県主催「スタートアップ支援セミナー」参加者募集	(株)デジコンキューブ
44	「たけのこ夏まつり」ボランティア募集	おもちゃ図書館うっぷたっぷ
45	着衣泳講習会のボランティア募集	酒田地区広域行政組合 消防本部
46	「金峰倶楽部」体験参加者募集	山形県金峰少年自然の家
47	PTA 行事「モルック大会」への参加者・ボランティア募集	宮野浦小学校 PTA
48	外国人研修生との交流会への参加者募集	The Hidden Japan(同)
49	「湊酒田つや姫ハーフマラソン大会」ボランティア募集	酒田市教育委員会 スポーツ振興課
50	「あそぶ！まねぶ！夏休みこども大学（楽)」のボランティア募集	鶴岡市ボランティアセンター

	ヒアリング内容	依頼・相談者
51	「ミライニ イブニングコンサート」実行委員の募集	ミライニ・イブニング・コンサート実行委員会
52	余目第三まちづくりセンター事業でのボランティア募集	庄内町余目第三まちづくりセンター
53	小・中学校での高齢者疑似体験におけるボランティアスタッフ募集	酒田市ボランティア・公益活動センター
54	令和 6 年度庄内地域創生懇談会の出席学生推薦について	山形県庄内総合支庁 総務企画部総務課
55	学生ボランティアツアー参加者募集	(株)庄交コーポレーション
56	小学生対象「夏休み寺子屋塾」でのボランティア募集	鶴岡市ボランティアセンター
57	「第 25 回 理工系学生科学技術論文コンクール」の募集	(株)日刊工業新聞社
58	講演「思い込みを探そう アンコンシャス・バイアス」の参加者募集	山形市市民活動支援センター
59	通常授業での学習ボランティアの募集	酒田市立十坂小学校
60	「ラーメン県そば王国やまがた」のロゴマーク募集	山形県観光文化スポーツ部 観光交流拡大課
61	「馬の里森林牧場」でのボランティア募集	鶴岡市ボランティアセンター
62	「学生ボランティア＆職場体験」について	(有)スエヒロ みんなのそら
63	「国際交流まつり in 中町 2024」」のボランティア募集	酒田市市民部地域共生課
64	イベント「みんなの SORAI」でのボランティア募集	KIDS DOME SORAI
65	『石井節子さん「ありがとう」展』でのボランティア募集	冨樫デザイン
66	発達に凸凹のある子どもと遊んでくれるボランティア募集	とまり木つくる会
67	「復興支援祭もしぇっとマルシェ」でのボランティア募集	酒田市ボランティア・公益活動センター
68	やまがた景観物語「玉簾の滝」×「Green Tea for good」プロジェクトのボランティア募集について	山形県県土整備部 県土利用政策課
69	「芋煮会ボランティア兼職場体験」について	(有)スエヒロ みんなのそら
70	「せいがフェス 2024」でのボランティア募集	庄内町余目第三まちづくりセンター
71	第 19 回「SYD ボランティア奨励賞」の応募及び広報について	SYD（公益財団法人修養団）
72	「鶴岡駅前ハロウィンパレード」でのボランティア募集	(有)スエヒロ みんなのそら
73	研修会「こどもの声を聴くということ～こどものために、私たちができること～」の聴講者募集	酒田市健康福祉部 こども未来課
74	講演「できる！を実感する学び～その子に合った学習方法を見つけましょう～」の聴講者募集	(有)スエヒロ みんなのそら
75	酒田市沖洋上風力発電事業に係る意見交換会の実施について	酒田市地域創生部商工港湾課

	ヒアリング内容	依頼・相談者
76	「SAKATA PROJECT DESIGNERS」の発表者、聴講者募集	酒田市産業振興まちづくりセンター サンロク
77	「庄内空港将来ビジョン検討会」への学生参加について	山形県県土整備部空港港湾課
78	公開シンポジウム「新思考の地域づくり」の聴講者募集	東北学院大学地域総合研究所
79	「こども赤ちゃんEXPO2024in酒田」でのボランティア募集	おもちゃ図書館うっぷたっぷ
80	「広域除雪ボランティア やまがた除雪志隊」の募集	山形県 防災くらし安心部 消費生活・地域安全課
81	生徒支援ボランティア募集	鶴岡市立鶴岡第五中学校
82	闇バイト防止に関する広報活動への協力について	酒田警察署生活安全課
83	「山形SDGsアクションワークショップ」への学生出演依頼	株式会社山形新聞社
84	「音楽の広場」（お遊戯会）でのボランティア募集	幼保連携型認定こども園 うえだこども園
85	SDGs×地域文化「さあ行こう、山形！ヤッショーマカショ！」参加者募集	山形県青年の家
86	アカペラ披露について（学生出演依頼）	すこやかワクワーク
87	新庄雪まつり「新庄藩×庄内藩 雪合戦」参加者募集	合同会社明日は晴れ
88	本学への訪問依頼について	国立大学法人長崎大学
89	「第32回 地域を活かす科学技術政策研修会in仙台」の聴講者募集	(公財)全日本科学技術協会
90	「鶴岡市こども環境かるた大会」でのボランティア審判員の募集	鶴岡市ボランティアセンター
91	七窪思恩園での学習支援ボランティアの募集	NPO法人セイブアライフ
92	「笑うお食事会in鶴岡」での学生ボランティアの募集	(有)スエヒロ みんなのそら
93	「雛菓子づくり体験～善寶寺見学とご祈祷付き～」参加者募集	庄内総合支庁 産業経済部 地域産業経済課
94	第77回「保健文化賞」への他薦・自薦について	第一生命保険(株)
95	「山形つながりあったかいぎ」と「3.11キャンドルナイト＆『3.11』を語る会」の参加者募集	鶴岡市ボランティアセンター
96	「ボランティアスタッフ講習会 兼 自然体験活動講習会」の実施について	山形県金峰少年自然の家
97	「あそぶ！まねぶ！春休みこども大学（楽）」のボランティア募集	鶴岡市ボランティアセンター

公益教養プログラム FORUM21

事業名	公益教養プログラム FORUM21
目的	当センターが企画・運営し、学内外の講師による幅広いテーマのプログラムを課外の教養講座（公開講座）として開催。

	開催日時	タイトル名・テーマ等	講師・報告者	役職・職名
1	4 月 24 日 （水） 13:20～14:55	2023 年度 秋学期 中期、長期留学報告会	本学学生	国際教養コース
2	6 月 22 日 （土） 14:00～15:30	陰謀論やデマ・偽情報について考える	両角 晃一 氏	元株式会社テレビ朝日 常務取締役
3	7 月 9 日 （火） 15:05～16:50	海から日本を守るということはどういうことか	谷口 礼史 氏 木下 正仁 氏	内閣府総合海洋政策 推進事務局　参事官 防衛省海上幕僚監部 防衛部　1 等海佐
4	10 月 2 日 （水） 13:20～14:55	2024 年度 春学期 短期留学報告会	本学学生	国際教養コース
5	10 月 23 日 （水） 18:30～20:00	歴史的街並みを未来へ繋ぐ ―成功事例で見る保全の実践	張 紅	本学助教
6	11 月 21 日 （木） 18:30～20:00	英語多読で語彙力アップ　辞書を使わない英語学習	フェック・ エドモンド バンティング・ ティモシー	本学准教授 本学特任助教
7	12 月 11 日 （水） 13:15～14:30	2024 年度 中期留学報告会	本学学生	国際教養コース
8	12 月 14 日 （土） 15:00～16:30	「アメリカ公民権運動」と 「人間の意識向上の理念」の文学への投影	加藤 良浩	本学准教授

FORUM２１ 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	2023 年度 秋学期 中期、長期留学報告会		
開催日時	令和６年 ４月 ２４日(水) １３：２０ ～ １４：５５		
会場	東北公益文科大学　教育研究棟　１０４教室		
内容	語学留学への参加を検討している学生や興味のある学生など多くの学生が語学留学についてのイメージを広げ、前向きに検討するきっかけとなることを目的に開催。 中長期語学留学（オーストラリア、アイルランド、カナダ）に参加した学生から日本との文化の違い、日常生活や大学について報告していただいた。 ・短期留学６名（オーストラリア） ・中長期留学３名（オーストラリア、アイルランド、カナダ） ・海外インターンシップ４名（モンゴル日本人材開発センター）		
報告者	所属・職名	国際教養コース	
	氏名	本学学生	
主催	東北公益文科大学　教務学生課		
協力団体			
参加人数	１０名		
感想	留学を考えている学生を中心に参加いただいた。 学生の報告では、「友達も知り合いも家族もいない異国の地で、最初はどうしようと不安に思うこともあったが、『悩むよりまず行動！』だと思い、チャレンジ精神を持って、いろいろな経験した」「留学は行動力が求められると感じた」「留学を通して、何事にも物怖じせず、前向きに取り組めるようになった」など、語学留学に興味のある学生にとって参考になり、前向きに考えられるものになったと感じた。		

FORUM２１ 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	陰謀論やデマ・偽情報について考える		
開催日時	令和６年 ６月 ２２日(土) １４：００ ～ １５：３０		
会場	酒田市公益研修センター　中研修室１		
内容	国内外の時事問題について幅広い知見をお持ちの両角氏より、偽情報の発生メカニズム、世の中に広がるデマの例、陰謀論・噂・都市伝説、世の中の情報に左右されないためのメディアリテラシーの重要性などについてお話いただいた。 両角氏は「偽情報・デマは、不安心理が掻き立てられ正常な判断が出来なくなり、真偽不明の情報を他者と共有して少しでも安心感を得ようとする心理から広がっていく。特に災害時の善意を利用されるケースが多い。陰謀論は、不安な状況を理解・納得したいという心理につけ込んで作られた『物語』で、新型コロナウイルスが流行した頃からクローズアップされた。噂はどんなにメディアが普及しても決して消えることはない。都市伝説は真実性が希薄でも、物語として面白いため広がっていく」と説明した。 最後は参加者に「『正しい情報』は人生の大切な道しるべ。情報に強くなることは人生を歩んでいくことでとても重要な『力』となる。情報を複数のメディアで確認する『ファクト・チェック』を心掛けて欲しい」と呼び掛けた。		
講師	所属・職名	元株式会社テレビ朝日　常務取締役	
	氏名	両角 晃一 氏	
主催	東北公益文科大学　地域共創センター		
協力団体			
参加人数	２１名		
感想	本学学生１名、教職員３名、一般参加者 17 名の計 21 名の方に参加いただいた。 参加者アンケートでは、「陰謀論やデマは生ませない・広げないことが大切なのだと思った。情報が持つ影響力を予測する力を身に付けていきたい」「普段考えないことが学べ、知識の幅が広がった」「情報一つ一つが正しいか否か考え続ける個人の意識が最後の防波堤となるということを改めて認識させられた」などの感想が寄せられた。		

FORUM２１ 活動報告書		担当者	樋口 恵佳
事業名	海から日本を守るということはどういうことか		
開催日時	令和６年 ７月 ９日(火) １５：０５ ～ １６：５０		
会場	東北公益文科大学　教育研究棟　１０４教室		
内容	本学の講義である「国際裁判シミュレーション」を市民の方へ公開した。 ○谷口礼史氏講義「我が国の海洋政策の概要」 日本の国土や漁業、海上輸送等において海洋の重要性が高いこと、鉱物資源や海洋再生エネルギーに関する需要があること、海洋のリスクに備えなければ、身近な食糧品の値段等にも影響すること等を講義いただいた。また、今後の海洋開発戦略として、自律型無人探査機(AUV)や海洋状況把握(MDA)の推進等が予定されていることにも触れていた。 ○木下正仁氏講義「海上自衛隊について」 木下一佐のプロフィールや幹部学校での体験・留学体験から、世界から見た海洋経済・海上輸送における日本の位置づけ、海上防衛力の役割、かつて国外に展開することが議論になっていた自衛隊であるが、現在海上自衛隊は国内外において活躍するようになっている等、多岐にわたり実体験を元にした詳細な講義をしていただいた。		
講師	所属・職名	内閣府総合海洋政策推進事務局　参事官 防衛省海上幕僚監部防衛部　１等海佐	
	氏名	谷口 礼史 氏 木下 正仁 氏	
主催	東北公益文科大学　地域共創センター		
協力団体	内閣府総合海洋政策推進事務局 /防衛省海上幕僚監部防衛部、自衛隊酒田事務所		
参加人数	７０名		
感想	本学学生と教職員、一般参加者など計 70 名の方に参加いただいた。 【良かった点】　講師 2 名はいずれも大変良く準備してきていただき、とてもありがたかった。学生向け（広報）として別途質疑の時間を設けていただいていたが、結果としてそこでの質疑応答は非常にリラックスした雰囲気でゆっくりと学生が質問することのできる空間となり、学生の満足度が非常に高かった。 【反省点】　講義内の時間で収めるため、一般質問の時間がほとんど取れなかったのが反省点であった。講義時間内で FORUM21 を実施しようとした場合、質疑応答をたっぷりとろうとすると講義自体を 60 分程度に収める必要があるなと感じた。また、外部講師へのタイムキープの難しさも感じた。次回機会があれば、「あと○分」などのプラカードを用意しようと思う。		

FORUM２１ 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	2024 年度 春学期 短期留学報告		
開催日時	令和６年 １０月 ２日(水) １３：２０ ～ １４：５５		
会場	東北公益文科大学　教育研究棟　１０４教室		
内容	語学留学への参加を検討している学生や興味のある学生など多くの学生が語学留学についてのイメージを広げ、前向きに検討するきっかけとなることを目的に開催。 短期語学留学（アイルランド、カナダ）に参加した学生から日本との文化の違い、日常生活や大学について報告していただいた。 ・短期留学 11 名（アイルランド、カナダ）		
報告者	所属・職名	国際教養コース	
	氏名	本学学生	
主催	東北公益文科大学　教務学生課		
協力団体			
参加人数	１０名		
感想	留学を考えている学生を中心に参加いただいた。 学生の報告では、「クラスには様々な国から来た留学生が多かったため、英語の学びだけでなく、他国の文化や習慣についても勉強になった」「週二回、留学生向けのアクティビティに参加することで、(様々な土地の) 歴史を勉強することができた」「英語に触れる時間を増やすため学内のイベントに積極的に参加し、はじめて英語を使いながら娯楽をする楽しさを味わうことができた」など、語学留学に興味のある学生にとって参考になり、前向きに考えられるものになったと感じた。		

FORUM２１ 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	歴史的街並みを未来へ繋ぐ―成功事例で見る保全の実践		
開催日時	令和６年 １０月 ２３日(水) １８：３０ ～ ２０：００		
会場	酒田市公益研修センター　中研修室１		
内容	優れた研究成果をあげた教員を表彰する本学独自の制度「東北公益文科大学 ベストアワード」を 2023 年度に受賞した張紅助教が登壇し、地域の方に本学教員のシーズを発信することを目的に開催した。 張助教は、歴史的街並み保全についての研究を始めたきっかけ、福島県にある大内宿の景観の変化・保全の過程・住民の意思決定などについて講演した。 大内宿の保全活動が開始した大きなきっかけとしてダムの建設や相沢韶男氏が学術界に保全を訴えたことなどを挙げ、茅葺きトタン被覆などから茅葺き屋根に復原されるまでの過程について説明した。また、大内宿の保全活動開始前後と現在の街並みの違いや観光業について話した。 最後に「住民向けに実施したアンケートでは、保全活動を通して地域アイデンティティが強くなったという回答が多くあった。大内宿を後世に残すためにも研究を続けていきたい」と話していた。		
講師	所属・職名	東北公益文科大学　助教	
	氏名	張 紅	
主催	東北公益文科大学　地域共創センター		
協力団体			
参加人数	１７名		
感想	本学学生１名、教職員８名、一般参加者８名の計 17 名の方に参加いただいた。 参加者アンケートでは、「一度改変された景観が、まちづくりや観光業の影響で戻ったという点がとても面白いと感じた」「山間地域で生業が成り立ち、街並みが残っている大内宿は大変興味深かった」「とても分かりやすい解説だった。倫理的で実地調査もよくされているな、と思った」「ぜひ一度大内宿に行ってみたいと思った」「先生の研究内容を詳しく知ることができて、大変貴重な機会だった」などの感想が寄せられた。		

FORUM２１ 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	英語多読で語彙力アップ 辞書を使わない英語学習		
開催日時	令和６年 １１月 ２１日(木) １８：３０ ～ ２０：００		
会場	酒田市公益研修センター　中研修室１		
内容	英語多読について研究しているフェック・エドモンド准教授、バンティング・ティモシー特任助教が登壇し、地域の方に本学教員のシーズを発信することを目的に開催した。 両教員は、英単語の習得の重要性、多読の本(Graded Readers＝GR)の活用方法、多読の三原則、多読の効果などについて講演した。 多読の本は第二言語を習得したい方向けの本で、よく使う単語や表現が多く使用されているため、3 つ以上知らない単語があれば「読みやすさレベル（＝YL)」を下げて本を選ぶべきと説明した。また、多読 3 原則について説明し、難しい内容を勉強するのではなく「楽しく」学ぶことが大事だと話した。 最後に「多読の本は語彙力・読む力・書く力がアップする。自分が好きな内容の本で 95%の単語が分かる読みやすさレベルの本を読んで、辞書を使わずスラスラ読めるようになるのを目標にして欲しい。多読の本を読んで、楽しみながら英語を学習しましょう」と参加者に呼び掛けた。		
講師	所属・職名	東北公益文科大学　准教授、特任助教	
	氏名	フェック・エドモンド、バンティング・ティモシー	
主催	東北公益文科大学　地域共創センター		
協力団体			
参加人数	６０名		
感想	本学学生 5 名、教職員 6 名、一般参加者 49 名の計 60 名の方に参加いただいた。 参加者アンケートでは、「今後の自分の学びに繋げられそうです」「英語学習のモチベーションになった」「とても興味深い内容で、英語を学んでいる身として新たな勉強方法を知れて良かった」「公益大の図書館で多読の本を借りてみようと思った」「英語関連の講演等があったら、また参加したい」などの感想が寄せられた。		

FORUM２１ 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	2024 年度 中期留学報告会		
開催日時	令和６年 １２月 １１日(水) １３：１５ ～ １４：３０		
会場	東北公益文科大学　教育研究棟　１０４教室		
内容	語学留学への参加を検討している学生や興味のある学生など多くの学生が語学留学についてのイメージを広げ、前向きに検討するきっかけとなることを目的に開催。 中期留学（アイルランド、カナダ）へ行った学生から日本との文化の違い、日常生活や大学について報告していただいた。 ・中期留学３名（アイルランド、カナダ）		
報告者	所属・職名	国際教養コース	
	氏名	本学学生	
主催	東北公益文科大学　教務学生課		
協力団体			
参加人数	１０名		
感想	留学を考えている学生を中心に参加いただいた。 学生からの報告は、語学留学に興味のある学生にとって参考になり、前向きに考えられるものになったと感じた。		

FORUM２１ 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	「アメリカ公民権運動」と「人間の意識向上の理念」の文学への投影		
開催日時	令和６年 １２月 １４日(土) １５：００ ～ １６：３０		
会場	酒田市公益研修センター　中研修室１		
内容	昨年度着任した加藤良浩准教授が登壇し、地域の方に本学教員のシーズを発信することを目的に開催した。 自身の経歴、『高く昇って一点へ』『現象としての人間』『オコナー短編集』などの書籍を例に、当時の黒人差別や公民権運動（「バスボイコット運動」「ブラウン裁判」など）、作品描写から読み取れる作者の想いについてなどについて講演した。 加藤准教授は『響きと怒り』にてついて研究したいと思い、公立高校の教員をしながら大学院に通ったと話した。また、母親の死の場面で終わる作品を例に、英文と日本語訳では文章のニュアンスが違うため、どちらも読むとより理解が深まると説明した。 最後に「これまで 1 人の作者の作品についての研究ではなく、自分が面白いと思った作品の研究をしてきた。研究は日々最新のものが求められるため、色々な文献を調べている。今後も、面白いけれど難解な作品を探して、時代背景から分かる作者の想いを解釈していきたい」と話した。		
講師	所属・職名	東北公益文科大学　准教授	
	氏名	加藤 良浩	
主催	東北公益文科大学　地域共創センター		
協力団体			
参加人数	１９名		
感想	本学学生 2 名、教職員 4 名、一般参加者 13 名の計 19 名の方に参加いただいた。 参加者アンケートでは、「アメリカの歴史を別の視点から勉強することができた」「大変面白い講演でした。資料を読み直して、整理してみたいと思う」「歴史の流れを見ながら倫理的に読み解くことができ、非常に興味深く共感できた」「普段の生活の中では使わない思考や感覚を刺激される貴重な時間だった」などの感想が寄せられた。		

教養講座　共創カフェ

事業名	教養講座共創カフェ
目的	本学教員や学生が話題提供者となり、小規模で双方向形式の講座として開催する。

	開催日時	タイトル名・テーマ等	企画者
1	6月5日 （水） 13:30～16:00	公益大に散らばる宝物	地域共創センター
2	1月28日 （火） 17:30～18:45	ジェンダーカード交流会	2年生 中田歌穂 1年生 卯野優菜、佐藤弘将

共創カフェ 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	公益大に散らばる宝物		
開催日時	令和６年 ６月 ５日(水) １３：３０ ～ １６：００		
会場	酒田市公益研修センターおよび教育研究棟２・３階		
内容	本イベントは学年を超えた学生同士の交流を目的に本学保護者会よりご支援いただき、開かずの箱様の校内周遊型謎解きキット「校舎に散らばる宝物」を使用して開催した。 くじ引きでチームに分かれ、酒田市公益研修センターおよび教育研究棟 2･3 階に設置された 12 個の謎を解いた。12 個の謎を解き、合言葉を導きだしたチームにはチェックポイントにて次の謎を貰う。 優勝チームには酒田米菓株式会社様の商品詰め合わせが景品として贈られた。また、謎解き終了後は別会場に移動し、軽食を食べながら交流した。		
講師	所属・職名		
	氏名		
企画者	東北公益文科大学　地域共創センター		
協力団体			
参加人数	１３名		
感想	本学学生 13 名に参加いただいた。 参加者アンケートでは、「グループで謎解きをしていくのが面白かった」「他学年の方とも交流ができ、いい機会になりました」「簡単すぎず難しすぎない難易度でとても楽しかったです」「第 2 弾もぜひ楽しみにしています」などの感想が寄せられた。		

共創カフェ 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	ジェンダーカード交流会		
開催日時	令和７年 １月 ２８日(火) １７：３０ ～ １８：４５		
会場	酒田市公益研修センター　中研修室１		
内容	山形県「男女共同参画ユースリーダー養成講座」を修了した本学学生 3 名が企画・運営を行った。養成講座内で作成されたジェンダーカードを使用して出前講座を 2 回実施し、その後一部のメンバーで作成した新たなカードを使用してイベントを実施した。 2 グループに分かれ、茶菓子を楽しみながらグループトークを行った。企画と運営を行った3名の学生は、「普段話さないテーマについて意見交換を行うことができて良かった。またイベント終了後もジェンダーカードや私たちの活動に興味を示してくれる方がいた。今後開催するときは、より多くの方にご参加いただけるようにしたい」と話していた。 ・ジェンダーカードの内容（一部抜粋） 男子の制服にスカートという選択肢があったら、生理のことはどのくらい知っているか、話し方や座り方で人を判断してしまうことはあるか、恋愛をリードするのはどっち		
講師	所属・職名		
	氏名		
企画者	中田歌穂、卯野優菜、佐藤弘将		
協力団体	東北公益文科大学　地域共創センター		
参加人数	９名		
感想	本学学生４名、一般市民５名の計９名の方に参加いただいた。 参加者アンケートでは、「ジェンダーは性に関することだけでなく、心理的なことも含まれると初めて知った」「予想以上に活発に意見が飛び交って新鮮だった」「イベントへの参加を通して、人それぞれの価値観や考え方を知れて楽しかった」「貴重な体験ができて良かった」などの感想が寄せられた。		

学生活動支援

事業名	学生活動支援
目的	本学学生の意欲的な自主活動を支援することで、本学がめざす「大学まちづくり」のさらなる充実を図る。

	助成金・補助金	事業の目的	採択件数
1	学生活動支援助成金	大学の活性化を目的とした本学学生による自主活動及び本学学生と地域との協働によるまちづくり活動を支援するため、学生からの具体的な活動に関する申請に対し、選考の上、「学生活動支援助成金」として活動経費の一部の助成をすることとする。	1 件
2	災害復興・地域防災活動支援助成金	学生による災害復興・地域防災活動を支援するため、災害復興・地域防災に関する活動（被災地・避難者支援、地域防災活動など）に関する申請に対し、選考の上「災害復興・地域防災活動支援助成金」として活動経費の一部を助成することとする。	0 件
3	まちづくりインターンシップ補助金	学生の街づくり活動及び学生の自主活動を支援するため、街づくりに関する活動（インターンシップ・事例発表・研修活動など）で申請のあった学生について、「まちづくりインターンシップ補助金」として活動経費の一部を助成することとする。	5 件

【学生活動支援助成金採択一覧】

No.	申請日	申請者	活動実施代表	活動内容	支出額
1	4 月 19 日	酒田おもてなし隊	3 年 白山幸輝	新入生向け酒田ツアー	3,200 円

【まちづくりインターンシップ補助金採択一覧】

No.	申請日	申請者	活動実施代表	活動内容	支出額
1	5 月 22 日	日本酒同好会	4 年 向谷地那響	美酒県山形での調査	6,149 円
2	7 月 9 日	IVUSA 山形酒田クラブ	3 年 近野貴輝	山形県日本海沿岸清掃	90,000 円
3	9 月 10 日	中田歌穂		「ジェンカレ」への参加	30,000 円
4	1 月 24 日	卯野優菜		オンライン講座受講	5,200 円
5	1 月 24 日	佐藤弘将		オンライン講座受講	5,200 円

令和6年度 東北公益文科大学 学生活動支援助成金 活動報告書

活動実施グループ名 酒田おもてなし隊ツアー企画班

1. 活動の名称	新入生向け酒田ツアー
2. 実施期間	令和　6年　5月　18日　から　令和　6年　6月　9日　まで
3. 具体的な活動内容	(どのような活動を、誰を対象に、いつ、どのように行ったか) 5月18日(土)と6月9日(日)、エリアを変えて二度行った。この企画の呼びかけは、学内ポスターやおもてなし隊のインスタグラムにて行い、興味をもった新入生の参加を募った。 〇第1弾　5月18日(土) 9:30～11:00 「出羽遊心館」や「飯森山公園」など大学周辺を散策しながら、授業や大学生活、サークルについて話し新入生との交流を深めた。大学周辺には気持ちが落ち着く施設や自然あふれる環境があることを知ってもらえた。 〇第2弾　6月9日(日) 9:17～13:52 9:17に大学前発のるんるんバスに乗車し、「酒田駅前交流拠点施設ミライニ」を訪問した。新入生は多種多様な本の世界に魅了され、想定していた以上に長い時間(約45分ほど)滞在した。「半日は滞在できそう」という感想があり、休日を過ごす場所のひとつとして今後も利用してもらえそうだと感じた。また、「酒田おもてなし隊」のポストカードやパンフレットを置いていただいていることも知ってもらい、私たちの活動の大きさを感じてもらえた。 その後、酒田市の現状や課題についても考えながら中町商店街を散策し、「山王くらぶ」を訪問した。傘福や昔ながらの雰囲気に圧倒されながら、酒田の歴史についての視野を広げた。 昼食は、当初「海鮮市場」に行く予定だったが混雑が見込まれたことから、「お休み処 日和山関所」へ変更した。「持ち歩きピザ」などをいただきながら、お店の方から持ち歩きピザの開発背景や観光についてお聞きすることができた。酒田おもてなし隊の私たちも知らなかったことをたくさん吸収することができた。 最後に、予定にはなかったが文化センター内の「酒田市文化資料館光丘文庫」を訪問し、さらに酒田の歴史についての知識を深めてもらった。 文化センター正面口からるんるんバスに乗車し、13:52大学前へ到着した。
4. 活動の成果	(今回の活動を通じて生まれた新たな連携や大学・地域における活動の広がり、気づいた点など) 〇第1弾　5月18日(土) 9:30～11:00 新入生2名が参加し、酒田おもてなし隊の3年生2名が案内した。 〇第2弾　6月9日(日) 9:17～13:52 新入生2名が参加し、酒田おもてなし隊の3年生3名(1名途中参加)が案内した。 酒田おもてなし隊の加入に迷っていた新入生1名が、正式に加入することとなった。今後もサークル内で交流を深めていきたい。酒田市の魅力を知りたいと思っていた参加者にとっては、新たな魅力を感じてもらえたようだった。今後、この地域を盛り上げる学生の1人となることを期待したい。 私たちにとっても、新入生がどんな考えをもっているのかを知ることができ、大変勉強になった。ここでの学びを今後のサークル運営などに活かしていきたい。 山王くらぶや日和山関所の方が私たちに話しかけてくださった場面から、改めて地域の方々のあたたかさを感じた。地域のことを地域の方との対話を通じて知ることができ、案内する側にとっても学びが多かった。これからも様々な活動を通じて、あたたかく優しい地域の方々と公益大生とのつながりをより密なものにしていきたいと感じた。

※文字サイズは10ポイント以上とし、2ページ以内としてください。

令和6年度　東北公益文科大学　まちづくりインターンシップ補助金　実績報告書

申請者氏名　　日本酒同好会　向谷地那響

1. インターンシップ先の名称	「日本一美酒県山形県フェア」
2. 実施期間	令和　6年　6月　1日　から　令和　6年　6月　1日　まで
3. インターンシップの具体的な内容	（どのような活動を、誰を対象に、いつ、どのように行ったか） 山形県総合文化芸術館前にて開催された「日本一美酒県山形県フェア」へ来場した方と、本学学生を対象に日本酒に関するアンケート調査を行った。 ～「日本一美酒県山形県フェア」へ来場者への調査～ 〇手法 口頭 〇アンケート内容 性別、年代、何を購入したか、日本酒を購入する際何が決めてになるか、甘口派or辛口派、ジュースみたいな甘い日本酒があったらどうか ～本学学生への調査～ 〇手法 WEBアンケート 〇アンケート内容 ・日本酒を飲んだことがあるか はい　→どんなきっかけで飲んだか、日本酒は好きか嫌いか、どこで飲むことが多いか いいえ→今後日本酒を飲んでみたいと思うか ・日本酒のイメージ ・どんな日本酒があったら飲んでみたいか
4. 活動の成果	（インターンシップを通じて生まれた新たな学びや大学・地域における活動の広がり、気づいた点など） 「日本一美酒県山形フェア」の参加者からは10名、本学学生からは54名の方からアンケート調査にご協力いただいた。 学生対象のアンケート調査より、若者はジュースのような甘い日本酒を飲んでみたいという回答が多くあった。この結果を踏まえて、日頃から日本酒を飲む方にジュースのような日本酒を飲んでみたいか調査したところ、買いたい3名、買わない6名、興味がある1名だった。 日本酒自体を飲みやすいものにするのではなく、若者や日本酒に挑戦したことがない人が飲みやすい飲み方を提案することが効果的だと感じた。イベント参加者の方から教えていただいた飲み方を公翔祭の出店の際に紹介し、日本酒を作ったカクテルなども紹介したいと思う。 また、参加者の方のつながりで、山形県酒造組合の副会長兼六歌仙の社長をされている方とお話をすることができた。蔵の見学や、勉強会についても前向きにお話しいただいたため今後の活動の中で関わっていきたい。 「日本一美酒県山形フェア」では活動の記録として、許可をいただき写真撮影を行った。日本酒同好会のインスタグラムにアップし、活動報告を行う。

※文字サイズは10ポイント以上とし、2ページ以内としてください。

令和6年度　東北公益文科大学　まちづくりインターンシップ補助金　実績報告書

申請者氏名　　IVUSA山形酒田クラブ　近野貴輝

1. インターンシップ先の名称	海浜自然の家
2. 実施期間	令和　６年　８月　２７日　から　令和　６年　８月　３１日　まで
3. インターンシップの具体的な内容	(どのような活動を、誰を対象に、いつ、どのように行ったか) ①知識を知る NPO法人パートトナーシップオフィスさんや、東北工業大学に岸本さんから、海ゴミの回収方法、危険物の取り扱い方、なぜ海ゴミを回収する必要があるのか、ジオパーク関連の話等々、活動が始まる前に知識面をインプットすることで、活動に主体的に取り組める環境を作る。 ②学生同士の交流 星空観測(晴天時)やアイスブレイクとしてフォトコンテストを班ごとに実施する。学生同士が交流を深めることにより継続的に問題に取り組める関係性を作る。 ③西浜海岸と、十里塚海岸、飛島の清掃 西浜海岸と、十里塚海岸、飛島の清掃を行う。特に西浜岸や飛島は鳥海山・飛島ジオパークにも認定される海岸であるのに、消掃が満足に行われていない現状がある。参加者には現場で何を感じたか、自分はどうするべきかを、活動後のミーティングで班ごと話し合う。 ◎8月27日 鳥海温泉遊楽里にて結団式、西浜海岸清掃、班ミーティング ◎8月28日 飛島田下海岸清掃、田下海岸清掃、バケツリレー、班ミーティング、星空観測 ◎8月29日 飛島田下海岸清掃、バケツリレー、班ミーティング、隊内交流 ◎8月30日 十里塚海岸清掃、フォトコンテスト、班ミーティング、花火 ◎8月31日 宿舎清掃、西浜海岸清掃、解団式 ◎8月27日（燃えるごみ36袋、燃えないごみ4袋、漁網33袋、粗大ごみ140袋） ◎8月28日（燃えるごみ40袋、燃えないごみ2袋、漁網26袋、粗大ごみ88袋） ◎8月29日（燃えるごみ48袋、燃えないごみ4袋、漁網20袋、粗大ごみ120袋） ◎8月30日（燃えるごみ56袋、燃えないごみ6袋、漁網27袋、粗大ごみ167袋） ◎8月31日（燃えるごみ19袋、燃えないごみ2袋、漁網5袋、粗大ごみ52袋）
4. 活動の成果	(インターンシップを通じて生まれた新たな学びや大学・地域における活動の広がり、気づいた点など) 活動前にNPO法人や専門家からの講義を受けることで、単なる清掃活動にとどまらず、海洋ゴミ問題の深刻さを具体的に理解し、自分ごととして捉えることができました。活動では、学生同士の交流が促進されるよう工夫されているため、初対面の学生たちがすぐに打ち解け、活動への参加意識を高めることができました。また、課題解決に向けた意見交換が活発に行われたことでチームワークの重要性を実感し、今後の活動にも生かせる学びでした。 特に印象的だったのは、「鳥海山・飛島ジオパーク」に指定されている西浜海岸や飛島の清掃活動です。観光地でありながらゴミが散乱している現状に直面し、環境保全の難しさと必要性を実感しました。活動後のミーティングでは、自分たちの行動の意味を班ごとに振り返り、地域の環境保護に貢献することの重要性を再確認しました。 地元の住民の方や他の参加者との交流を通して、地域社会と大学が連携して取り組むことの大切さを学びました。これまでの大学での学びを現場に活かし、地域の方々と協力して問題解決に取り組むことで、新たに実践的なスキルや知識を得ることができました。 今回のインターンシップを通じて、地域の環境問題に対する意識を高め、自分たちの行動が地域社会に与える影響について深く考えるきっかけとなりました。今後も大学で学んだ知識を活かし、地域の活動に積極的に参加し続けたいです。

※文字サイズは10ポイント以上とし、2ページ以内としてください。

令和6年度　東北公益文科大学　まちづくりインターンシップ補助金　実績報告書

申請者氏名　　中田歌穂

1. インターンシップ先の名称	(一社)GENCOURAGE「ジェンカレ」
2. 実施期間	令和　6年　9月　21日　から　令和　7年　3月　2日　まで
3. インターンシップの具体的な内容	(どのような活動を、誰を対象に、いつ、どのように行ったか) ジェンダー課題に関心のある若者(15歳～29歳)が、ジェンダー平等な社会を目指し、一歩踏み出すためのサードプレイス「ジェンカレ」にゼミ生として参加。 〇オンライン講座(全13回) 政治・ビジネス・歴史・LGBTQ＋・男性学など幅広いトピックから各分野に精通する講師が登壇。各講座後は、ゼミ生同士でディスカッションを行い、テーマに基づいた課題について意見交換を実施した。また、各講座終了後は講師から出される「ミニアクション課題」に取り組んだ。ジェンカレ専用ワークシートを用いて、講座内容を整理・復習し、進捗を可視化した。 〇MAP(My Action Plan)の作成と実施 中間発表会:12/14(土)、進捗共有会:1/19(日)・2/12(水)、最終発表会:3/2(日) 地方におけるジェンダー格差をテーマにMAPを策定した。中間発表会では、ゼミ生やメンターからフィードバックを受け、内容を修正・ブラッシュアップした。 〇合宿(10/12～14、国立オリンピック記念青少年総合センターにて) 他の受講生や講師と直接交流することで、理論の学びを深めるだけでなく、地域や個人の課題に即した具体的な解決策を議論した。 12日→オリエンテーション、プレゼン講座など 13日→バックキャスティング、対話と共創の方法など 14日→ジェンダー平等に向けてのMy Action Planを考える 〇ゼミ生限定コンテンツの活用 各分野で活躍するメンターからアドバイスを受け、MAP作成や行動計画の具体化を進めた。ゼミ生同士が自由に交流できるオンラインスペース「ジェンカフェ」で意見交換を行い、互いにアイデアを深め合った。
4. 活動の成果	(インターンシップを通じて生まれた新たな学びや大学・地域における活動の広がり、気づいた点など) ●知識の深化と視野の拡大 ジェンダーに関する包括的な知識を得ることで、地域課題の本質や解決の方向性がより明確になりました。ゼミ生やメンターとの交流を通じて、自身の視点を広げるだけでなく、多様な意見を取り入れる力が養われました。 ●アクションプランの実現可能性の向上 ゼミ生同士での意見交換や修正作業を繰り返す中で、実行可能で効果的なMAPを検討できました。MAP中間発表後にはターゲットとしたい30～40代男性で意思決定層の現状把握をするという行動計画を立てました。 ●地域連携と新たな行動基盤の構築 地域イベントでの登壇や活動を通じて、地域住民や学生との連携が深まり、ジェンダー課題に取り組むネットワークが形成されました。新団体の設立により、持続的な活動を行うための基盤を構築しました。 ●感想 学びと実践の両面で多くの成果を得ることができました。特に、ゼミ生同士でアイデアを共有しながら学びを深める過程が非常に有意義でした。また、地域のジェンダー課題に向き合いながら、どうしてそれが発生して発生しているのかを政治、家事育児、進路選択、就業などの側面で分析できたことに大きな達成感を感じています。今後もこの経験を活かし、持続可能なジェンダー平等の実現に向けて30～40代男性で意思決定層の現状把握や既存の活動調査、ユースに向けたジェンダー平等の周知活動を続けていきたいと考えています。

※文字サイズは10ポイント以上とし、2ページ以内としてください。

令和6年度　東北公益文科大学　まちづくりインターンシップ補助金　実績報告書

申請者氏名　　卯野優菜

1. インターンシップ先の名称	(公財)京都市男女共同参画推進協会　事業企画課　京都市男女共同参画センター
2. 実施期間	令和　７年　１月　２６日　から　令和　７年　３月　２３日　まで
3. インターンシップの具体的な内容	(どのような活動を、誰を対象に、いつ、どのように行ったか) 京都市男女共同参画センター ウィングス京都が主催するジェンダー論基礎講座をオンライン（録画）で受講した。 ◆第1回　1/30（木）～2/27（木）（オンライン視聴期間） テーマ:「女性が描く女性とは？―近代京都の女性画家たちから読み解く―」 講師:長尾衣里子氏（京都市京セラ美術館学芸員） 内容:女性画家たちが同性をどのように描いたかを通じて、当時の女性画家たちの視点や活動、そして「美人画」に表れる女性像を探る。2024年7月19日～9月27日に京都市京セラ美術館で開催された「女性が描く女性たち」に展示された作品の、先駆者たち・内に見せる姿・外に見せる姿のブースにフォーカスを当てた。 ◆第2回　2/27（木）～3/27（木）（オンライン視聴期間） テーマ:ファッションとジェンダー・イメージ 講師:平芳裕子氏（神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授） 内容:毎日服について考えている私たちだが、この行動がいかに歴史や社会の規範に影響を受けているのか、西洋や日本の歴史を遡り当時のファッションを見ていきながら、現代とともに移り変わるファッションやジェンダーイメージがどのように作られてきたのかを見ていく。 ◆第3回　3/27（木）～4/24（木）（オンライン視聴期間） テーマ:アニメキャラクターのジェンダーとは何か？ 講師:石田美紀氏（新潟大学大学院現代社会文化研究科教授） 内容:アニメキャラクターの身体を構築する視覚的要素と聴覚的要素はどのように作成されているのか。特に、日本のアニメに定着している女性が少年を演じる配役に注目し、姿と声、キャラクターと声優の組み合わせが示唆する人の在り方の多様性について見ていく。
4. 活動の成果	(インターンシップを通じて生まれた新たな学びや大学・地域における活動の広がり、気づいた点など) これまで「ジェンダー論」や「山形県男女共同参画ユースリーダー養成講座」を受講し、自身でも本を読んでみるなど、以前から興味があったジェンダーについて大学生になってから学ぶようになったが、内容によっては自分事としてとらえることが難しく、ジェンダーとの壁があるように感じていた。しかし、この講座を受講して以前より近くにジェンダーを感じることができるようになったと同時に私たちも当事者の一人なんだと知ることができたことが今回の大きな成果であると思う。 第1回目の講座では、伊藤小坡や上野松園をはじめとした女性画家の書く女性たちを見ていったが、当時男性が優遇され自分の個性を出すのが難しかった時代に、新しいことに挑戦し自分の個性を積極的に出していったという女性画家たちの姿勢に感動したと同時に、絵画を通して女性だけでは暮らすことが難しかった時代の文化や生活を知ることができて良かった。 第2回目の講座では、現代における日本の服装はいかに西洋の文化の影響を受けているのかということを学んだ。私は講座を受講する前からなぜスーツやヒールをなくそうとは思わないのかという疑問を個人的に持っていたのだが、受講したことで自分を表現し他者と区別するという役割を持っているはずの服に男性服と女性服というイメージを社会全体が与えてしまっていると同時にそれらが私たちの中にしみついてしまっているという事実を知ることができ、疑問を解消させることができる良い機会となった。 第3回の講座では、アニメのキャラクター自体にはそれ自体で性を持たないにも関わらず私たちイメージによってジェンダー表現を加えてしまっているというのを聞いて納得した。例えば、見た目は女の子だが中身は男の子の場合見た目から女性だなと判断してしまっているなど、私たちのジェンダーに対する考え方がアニメキャラクターに性別を与えているというのがとても印象的だった。また、少年役を女性が演じているのは子供のように声変わりがないからという理由だけではなく、長期的にアニメが続くことで子役に頼みづらくなってきたからということを知ることができて良かった。 絵画やファッション、アニメなど誰もが目にする触れることがあるようなものを普段とは違う角度から見ることで、一見遠い存在に感じてしまうジェンダーの問題を近くで感じ、私たち一人一人が当事者であるということを実感できるような経験だった。3回という少ない講座ではあるがその中で多くのことを学ぶことができ充実した時間を過ごすことができた。

※文字サイズは10ポイント以上とし、2ページ以内としてください。

令和6年度　東北公益文科大学　まちづくりインターンシップ補助金　実績報告書

申請者氏名　　佐藤弘将

1. インターンシップ先の名称	(公財)京都市男女共同参画推進協会　事業企画課　京都市男女共同参画センター
2. 実施期間	令和　７年　１月　２６日　から　令和　７年　３月　２３日　まで
3. インターンシップの具体的な内容	(どのような活動を、誰を対象に、いつ、どのように行ったか) 京都市男女共同参画センター ウィングス京都が主催するジェンダー論基礎講座をオンライン（録画）で受講した。 ◆第1回　1/30（木）～2/27（木）（オンライン視聴期間） テーマ:「女性が描く女性とは？―近代京都の女性画家たちから読み解く―」 講師:長尾衣里子氏（京都市京セラ美術館学芸員） 内容:女性画家たちが同性をどのように描いたかを通じて、当時の女性画家たちの視点や活動、そして「美人画」に表れる女性像を探る。2024年7月19日～9月27日に京都市京セラ美術館で開催された「女性が描く女性たち」に展示された作品の、先駆者たち・内に見せる姿・外に見せる姿のブースにフォーカスを当てた。 ◆第2回　2/27（木）～3/27（木）（オンライン視聴期間） テーマ:ファッションとジェンダー・イメージ 講師:平芳裕子氏（神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授） 内容:毎日服について考えている私たちだが、この行動がいかに歴史や社会の規範に影響を受けているのか、西洋や日本の歴史を遡り当時のファッションを見ていきながら、現代とともに移り変わるファッションやジェンダーイメージがどのように作られてきたのかを見ていく。 ◆第3回　3/27（木）～4/24（木）（オンライン視聴期間） テーマ:アニメキャラクターのジェンダーとは何か？ 講師:石田美紀氏（新潟大学大学院現代社会文化研究科教授） 内容:アニメキャラクターの身体を構築する視覚的要素と聴覚的要素はどのように作成されているのか。特に、日本のアニメに定着している女性が少年を演じる配役に注目し、姿と声、キャラクターと声優の組み合わせが示唆する人の在り方の多様性について見ていく。
4. 活動の成果	(インターンシップを通じて生まれた新たな学びや大学・地域における活動の広がり、気づいた点など) 大学講義「ジェンダー論」と山形県「男女共同参画ユースリーダー養成講座」を受講してきて、日常に潜むジェンダー問題に気を付けなければならないと感じていた。しかし、今回の講座で絵やファッション、アニメキャラクターからジェンダーについて考えてみて、日頃から個性として見ていたものに見えない問題や情報、共通点がたくさん潜んでいることを初めて知った。 第1回では、男性画家の描く女性と女性画家の描く女性は大きく違うことを知った。女性の描く女性は素直な気持ちを表したものが多く、男性の描く女性とは違って派手に身を表現するようなものがなかった。今までは、画家の作品をそれぞれの個性として見ていたが、そのほかに男性と女性でそれぞれ表現が違うということを覚えておきたい。講座は女性画家の描く絵の紹介のみであったため、男性画家の描く絵も見て違いをもっと知りたいと思った。酒田市内には美術館がいくつかあることから、時間があるときに今回学んだことを踏まえて絵画を観賞していきたい。 第2回では、どのようにして今のようなファッション文化になったのか、女性がファッションのメインになっている理由と理想のスタイルの話が印象に残った。特に、理想のスタイルの話ではコルセットやクリノリンが過去のものではなく、今でも心理的なものとして残っている話を聞いて、自分の痩せ願望がこの話に当てはまるのではないかと考えた。この話を今後のジェンダー活動の中で同じ世代に考える場を提供したり、健康的なのに痩せたいと考える人にアドバイスしていきたいと思った。 第3回では、アニメキャラクターの持つジェンダーをはじめ、アニメ制作や放送が今のような内容で行われている理由について学んだ。講座では、ジェンダーに関する基礎知識を軽くおさらいするほかに、アニメや放送の歴史と制作過程についても学ぶことができ、分野外の学びもあった。講座内容に共感できる部分もあり、大人気アニメのほとんどが少年役に女性声優を起用していることを改めて実感できた。今回学んだ内容を用いて知人にアニメを見ていて何か感じることがあるか聞いてみたい。 今回の講座では、過去に自分が学んだことのない新たな分野からのジェンダーに対する話を聞いて、新しい情報を得ることができた。講師から受講者へ問題提起を行う場面がいくつかあったもののその問題に対する答えを講義期間中に見つけることはできなかったため、今後の活動の中でその問題の答えを探していきたい。

※文字サイズは10ポイント以上とし、2ページ以内としてください。

サービスラーニング支援事業

事業名	サービスラーニング支援事業
目的	ボランティア活動、地域課題解決等に取り組む学生を対象とした研修会を開催。学生の自発的活動、地域貢献活動の支援を行なう。

	開催日	タイトル名・テーマ等	講師	役職・職名
1	7 月 17 日 （水） 15:15～16:45	取材の仕方講座	長谷川 結 氏	イト吉デザイン ラボ
2	1 月 15 日 （水） 17:00～18:30	フリーライターに聞く！ 魅力を伝える文章の書き方講座	長谷川 結 氏	イト吉デザイン ラボ

サービスラーニング支援事業 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	取材の仕方講座		
開催日時	令和６年 ７月 １７日(水) １５：１５ ～ １６：４５		
会場	酒田市公益研修センター　中研修室３		
内容	地域共創センター事業「ハタラクカタチプロジェクト」で活動する学生を対象とした勉強会として開催。お招きした講師の長谷川氏からは、2019 年度の事業開始時から取材をするにあたってのポイントなどをご教示いただいており、お世話になっている。 講座では、取材の仕方や記事の書き方、冊子デザインのポイントなどについてお話いただいた。 取材時は「相手を知る」ために事前の情報収集や質問項目を整理し、テープ起こしでは内容を整理し「理解する」、原稿制作では自分以外の誰かにも伝わるよう「代弁者となる」ことが重要だと説明した。「公益大の大学生らしさを感じられるよう、ハタラクカタチ vol.6 をどう作りあげていくかメンバー全員で話し合うことも大切」とご指導いただいた。 最後に長谷川氏は「大学生が色んな企業へ取材し内容をまとめ、記事にするのは自分の経験になる。今年度の活動も頑張って欲しい」と話した。		
講師	所属・職名	イト吉デザインラボ	
	氏名	長谷川 結 氏	
主催	東北公益文科大学　地域共創センター		
協力団体			
参加人数	９名		
感想	「ハタラクカタチプロジェクト」に所属する学生 6 名、教職員 3 名の計 9 名が参加した。 昨年度発行した冊子の良い点や改善点など詳しくお聞きすることができ、大変勉強になるお話だった。講座中、学生は熱心にメモを取りながら「新しいデザインやレイアウトを考えるときは何に気を付けたらいいか」「取材内容を記事にする際、文章が長くなってしまう。文章を削る時のポイントはあるか」など積極的に質問していた。 長谷川氏からご教示いただいたこと活かし、ハタラクカタチだからこそできる、魅力ある冊子を作成していきたい。		

サービスラーニング支援事業 活動報告書		担当者	小野田 栞奈
事業名	フリーライターに聞く！魅力を伝える文章の書き方講座		
開催日時	令和７年 １月 １５日(水) １７：００ ～ １８：３０		
会場	東北公益文科大学　教育研究棟　１０４教室		
内容	講師としてお招きした長谷川氏は、ライターだけでなく、デザインやレイアウトなどトータルで手掛けている。フリーペーパー『Cradle』の創刊号から従事し、主に特集ページを担当しており、また、遊佐町と庄内町の観光パンフレットも作成された。 講座では、『Cradle』に掲載された文章と推敲前の文章を比較しながら、自身でどのように文章や構成を修正したかについてご解説いただいた。興味が持てるような文章の書き出しや構成、理解を深めるための情報の取捨選択、主役を明確にするために主役を登場させるタイミングや説明する段落などが重要だと話された。 最後に「長年ライターをしているが、今でも魅力を伝える文章を書くのは難しいと感じている。理解しやすい内容で、抵抗感なく読める文章であることが大切。読み手の目線になっていろんな文章を書いてみてほしい」と参加者に呼び掛けた。		
講師	所属・職名	イト吉デザインラボ	
	氏名	長谷川 結 氏	
主催	東北公益文科大学　地域共創センター		
協力団体			
参加人数	９名		
感想	本学学生６名、教職員３名の計９名が参加した。 参加者からは、「初めてしっかりライティングをしてみて、すごく面白かった」「文章の書き方、言葉の選び方で全く異なる印象になることが分かり良かった」「読み手に伝えたいことを明確にして書くことの大切さを学んだ」「たくさん練習して、読みやすい魅力的な文章を書けるようになりたい」などの感想が寄せられた。		

地方創生に向けた人材育成事業
「ハタラクカタチ」

事業名	地方創生に向けた人材育成事業 「ハタラクカタチ」プロジェクト
目的	学生が庄内地域の企業を訪問、取材をし、若者ならではの視点で地元企業の魅力や地域で働く方のライフスタイルを発信した。令和 6 年度は、5 社を訪問し、庄内地区商工会広域連携協議会による「庄内地域企業見学バスツアー」にも参加し、冊子「ハタラクカタチ Vol.6」を発行した。本学学生に配付するだけでなく、地元高校・近隣大学、県・市などの商工担当課、商工会議所等へ配付・設置を依頼した。
内容	①「ハタラクカタチ」プロジェクトの組織化 ②プロジェクトメンバーによる勉強会の開催、情報収集・ヒアリング等による企業研究 ③企業への説明・協力依頼 ④企業への取材 ⑤取材企業の冊子作成、若者を中心とした市民への発信 ⑥報告書の作成、発信活動
プロジェクトメンバー	3 年：大瀧里奈、菅原綾乃、袴田隆星 2 年：大貫凜、今野美歩、齋藤早帆、佐藤風馬
取材先企業	【取材先企業】 ・有限会社寛明堂 ・酒田エス・エー・エス株式会社 ・庄内ヤクルト販売株式会社 ・社会福祉法人幾久栄会　幸楽荘 ・KAMEYA HOTEL 【庄内地域企業見学バスツアー】 ・大阪有機化学工業株式会社　酒田工場 ・株式会社サカタフーズ ・山形県商工会連合会（酒田ふれあい商工会） （順不同） 「ハタラクカタチ Vol.6」はこちらから
冊子	発行部数：5,000 部

受託事業・補助事業の報告

地域共創センターが関わる令和 6 年度受託事業・補助事業について、報告します。

■受託事業

事業名	地域デジタル人材等育成事業
受託者	東北公益文科大学（地域共創センター）
委託者	酒田市
実施期間	令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 2 月 28 日
契約金額	9,999,000 円
概要	本学の高度な情報技術を活かした各種講座、研究を通じ、地域で活躍できるデジタル人材育成をするとともに、若者の地元定住を促進することを目的とし、令和 2 年度より受託している。 4 つの履修証明プログラム（「データサイエンスにかかる講座」、「ビッグデータ解析・活用等にかかる講座」、「ドローン活用等を含む空間情報処理に関する講座」、「情報セキュリティに関する講座」）の開講、「ＩＴに関する技術やアイディア、課題、疑問などを共有、解決するための誰もが参加できるイベントの開催」、「公益大メディア情報コース学生と市内ＩＴ関連企業、プログラマー等との交流事業」、「地元高校情報科生徒が公益大メディア情報コースを体験するプログラム」、「公益大が IT を活用した地図コンテンツ作成」、「大学・高校連携コーディネート業務」「公益大と地元 IT 企業で実施するプロジェクト型応用演習の開講」の 10 事業を展開した。

■補助事業

事業名	令和 6 年度　公益のふるさとづくり活動補助金 「地域共創による公益のふるさとづくり推進」事業
受託者	東北公益文科大学（地域共創センター）
委託者	庄内開発協議会
実施期間	令和 6 年 5 月 16 日～令和 7 年 3 月 24 日
契約金額	800,000 円
事業目的 及び概要	令和 6 年度公益のふるさとづくり活動補助事業では、「地域創生に向けた人材育成事業」「FORUM21 実施事業」「共創カフェ事業」「学生活動支援助成金、まちづくりインターンシップ補助金、災害復興・地域防災活動支援助成金」「サービスラーニング支援事業」「学生および大学の地域活動等に関する発信事業」を実施した。 「地域創生に向けた人材育成事業」では、本学学生で組織する「ハタラクカタチプロジェクト」のメンバーが、若者の視点で庄内地域の企業の魅力や庄内で働く魅力を伝えることを目的に 5 社へインタビュー取材を行い、庄内地区商工会広域連携協議会による「庄内企業見学バスツアー」に参加し 3 社の取材をした。取材内容を冊子にまとめ発行した。 「公益教養プログラム FORUM21」は 8 回開催、「教養講座共創カフェ」は 2 回開催した。 「学生活動支援助成金、まちづくりインターンシップ補助金、災害復興・地域防災活動支援助成金」では、地域で活動する学生に助成を行っている。令和 6 年度は 6 件の活動へ助成を行った。また、令和 6 年 7 月山形県大雨災害を受け、学生・教職員延べ 220 名が泥出し等の復旧ボランティアに参加した。 「サービスラーニング支援事業」では、イト吉デザインラボの長谷川氏による講座を実施した。 「学生および大学の地域活動等に関する発信事業」では、「ビジネスマッチ東北」に出展し、本学の教育研究について PR した。また、共創センターのリーフレットを発行した。随時大学のホームページや共創センターSNS にて積極的な発信を行った。

事業名	令和 6 年 7 月大雨被害に関する支援活動
受託者	東北公益文科大学（地域共創センター）
委託者	公益財団法人日本財団
実施期間	令和 6 年 7 月 29 日～令和 6 年 12 月 31 日
契約金額	518,478 円
事業目的及び概要	日本財団から支援を受け、「チーム・ソーシャルワーカーズ」が、令和 6 年 7 月大雨災害により甚大な被害を受けた山形県庄内地域の中山間地域の要援護者への傾聴と、多機関・団体との連携と協働による個別ニーズへの支援の実施を目的として、以下の取り組みを実施した。 （1）傾聴ボランティア活動とそのための研修、関係機関との打ち合わせ、活動実施後の情報共有 傾聴活動に関する研修を実施した上で、学生・教職員が酒田市指定避難所にて冷たい飲み物の提供、傾聴、軽体操などを 5 回実施した。訪問活動や被害状況・支援状況についての記録を作成し、酒田市共生社会課・酒田市社会福祉協議会・酒田市地域包括支援センターなどと情報共有した。 （2）自宅避難者を対象とした傾聴、ニーズ調査、ボランティアコーディネーション等の実施 10 月から 12 月にかけて、被災者宅での泥出し等のボランティアや傾聴活動を行った。得た情報をもとに 12 月 22 日に酒田市一條コミュニティセンターにて「食べて！作って！触れ合って！～つながりで元気に～」を開催し、46 名の方にご参加いただいた。 ○活動対象地域（集落単位）：5 地域 ※酒田市八幡・大沢地区、八幡・日向地区、八幡・観音寺地区、 八幡・一條地区、西荒瀬地域 ○傾聴等の活動対象者数：125 人（実人数）

発行物のご案内

地域共創センターが令和 6 年度に発行したパンフレットや冊子を紹介します。

	発行物	内容	作成担当
1	地域共創センターリーフレット	地域共創センターの事業紹介	地域共創センター事務室
2	冊子 ハタラクカタチ Vol.6	庄内地域企業の魅力紹介	ハタラクカタチプロジェクト

新聞記事

日付	内容	カテゴリー	媒体
4/22	非行防止、大学生が協力　酒田署管内　ボランティア委嘱（9面）	学生	山形新聞
4/23	自然満喫　ごみ拾いに汗　酒田（14面）	学生	山形新聞
4/23	森林浴とごみ拾いで整備活動に汗　酒田「山をきれいにしてウォーキング」150人参加（2面）	学生	荘内日報
4/24	県少年警察大学生ボランティア　積極的声掛けで非行防止　酒田署　13人に委嘱状交付（5面）	学生	荘内日報
5/2	日本海岸林学会「地域賞」受賞記念　万里の松原で植樹活動　酒田　松くい虫被害避け広葉樹　地元児童と共に「大きくなって」願い込め（1面）	その他	荘内日報
5/21	大獅子登場、にぎわう湊町　酒田まつり本祭り　ディズニーパレードも（22面）	学生	山形新聞
5/21	港都　祭り一色に　酒田まつりにぎわう　山車行列2000人参加（1面）	学生	荘内日報
5/26	飛島　漂着ごみ拾い集め　195人、クリーンアップ作戦（22面）	学生	山形新聞
5/28	200人力合わせ飛島をきれいに　漂着ごみ2.5トン回収（1面）	学生	荘内日報
6/27	下草刈りやごみ拾いに汗　酒田・光ヶ丘と万里の松原（4面）	学生	荘内日報
7/12	海の安全保障考える　公益大　教養プログラム講座（2面）	その他	荘内日報
7/21	クロマツ林の下刈りや除伐に汗　酒田市浜中砂防林保全　公益大・山大農学部生ら奉仕活動（6面）	学生	荘内日報
8/7	小児がん支援に役立てて　公益大学生寄付　日本海総合病院へ　公翔祭レモネードスタンド（5面）	学生	荘内日報
8/12	公益大生　小児がん患者を支援　レモネード売り上げ寄付（13面）	学生	山形新聞
8/13	犯罪から身を守り楽しい夏休み　酒田で非行防止啓発活動（6面）	学生	荘内日報
8/17	北青沢地区で土砂撤去作業　酒田市の大雨被災地　公益大生もボランティアに加わる（7面）	学生	荘内日報
8/21	復旧手助け　活動拡大　学生団体「おでこBASE」　遊佐の大雨、作業拠点に（12面）	学生	山形新聞
8/23	食品ロスゼロへ循環の輪　公益大の団体　ユースサミットで報告　都内（Liga食品ロス削減チーム）（2面）	学生	山形新聞
8/28	こども家庭庁主催サミットで活動発表　公益大生「食品ロス削減の輪広げたい」（Liga食品ロス削減チーム）（1面）	学生	荘内日報
8/29	「想像より多い」現状踏まえ懸命作業　全国から大学生ら集い日本海沿岸清掃活動（IVUSA山形酒田クラブ）（1面）	学生	荘内日報
8/30	みんなで拾えば浜きれい！　酒田、遊佐　県内外の学生ら70人清掃（IVUSA山形酒田クラブ）（12面）	学生	山形新聞
8/31	再起　あす9月1日は「防災の日」　広告（男子バレーボール部）（19面）	学生	山形新聞
10/2	未成年のネットトラブル防ごう　少年警察大学生ボラ　酒田一中有志協力　タブレット用壁紙作り　若い発想で「小学1年でも分かる」デザイン（5面）	学生	荘内日報
10/17	水路の土石取り除く　酒田・玉簾の滝（22面）	学生	山形新聞
10/17	冷涼な環境に対応クランベリー定植　特産品化へ可能性探る　日向ふるさとづくり協議会初活動（Praxis）（5面）	学生	荘内日報
10/19	スーパームーン観望楽しむ　酒田（1面）	その他	荘内日報
10/22	玉簾の滝周辺の景観保全　大雨被害の復旧作業　地域住民と伊藤園社員ボランティア（2面）	学生	荘内日報
10/23	交通安全と非行防止呼び掛け　酒田（4面）	学生	荘内日報
11/16	庄内地域の課題や強化すべき施策議論　三川・創生懇談会（2年生髙木七美さん）（2面）	学生	山形新聞
11/20	社会貢献を顕彰「輝く県民活躍大賞」　9団体・個人決まる（Liga食品ロス削減チーム）（2面）	学生	山形新聞
11/21	滑走路2500メートルへ延長など要望　庄内空港の将来ビジョン検討会議　初開催（4年生及川龍之介さん、3年生白山幸輝さん、3年生山下紗枝さん）（1面）	学生	荘内日報
11/28	地域をより良くプロジェクト　ー酒田　実践者と支援者つなぐー　コミュニティ財団設立へ　キックオフイベント　意義を共有（2面）	学生	荘内日報
11/30	ネットトラブル防止の壁紙　共同制作　市内小中校の端末に活用　酒田署管内の大学生と酒田一中生（18面）	学生	山形新聞
12/1	ネットトラブル防止壁紙完成　酒田署　作成の生徒・学生へ感謝状（7面）	学生	荘内日報
12/6	若者支える財団設立へ　酒田市民有志　課題解決事業を助成（12面）	学生	山形新聞

日付	内容	カテゴリー	媒体
12/23	被災者と交流　孤立防ぐ　酒田　福祉士目指す公益大生（22面）	学生	山形新聞
12/25	芋煮振る舞い「ほうき」作りで心の交流　公益大で福祉を学ぶ有志「チーム・ソーシャルワーカーズ」 大雨被災者と触れ合いの場づくり（1面）	学生	荘内日報
1/30	「闇バイト」の危険性知って　酒田署が公益大で啓発　大学生ボランティア加わり呼び掛け（4面）	学生	荘内日報
1/31	酒田署と東北公益大の学生　闇バイト防止を広報　酒田（14面）	学生	山形新聞
1/31	性差別や無意識の偏見なくすため思い共有　公益大学生有志企画「ジェンダーカード交流会」 質問カード基に市民や学生意見交換（7面）	学生	荘内日報
2/1	カード使って楽しく学ぶ　公益大生企画　恋愛や生理、意見述べ合う 「自分にない価値観知った」（12面）	学生	山形新聞
2/7	山形SDGsアクション　将来見据えできること　ワークショップ　若手社員と大学生議論（2年生中田歌穂さん）（20面）	学生	山形新聞
2/11	雪合戦　軍配は庄内藩に 「雪まつり」で新庄藩と激突（雪かきボランティアサークルSNOW Mans）（11面）	学生	山形新聞
2/25	「一流体験」を財産に　公益大　首都圏で人材育成教育（2面）	学生	荘内日報
3/1	舗道（25面）	学生	山形新聞
3/4	犯罪やトラブルから未成年守る　酒田　スマホフィルタリング活用呼び掛け（6面）	学生	荘内日報
3/6	全国から大学生ボランティア集合　庄内浜で清掃活動展開（IVUSA山形酒田クラブ）（4面）	学生	荘内日報
3/7	山形SDGsアクション　私たちの未来だから真剣に考えたい　若手社会人×大学生　2テーマでワークショップ（2年生中田歌穂さん）（16面）	学生	山形新聞
3/18	地域情報　若者に届け　置賜総合支庁、「やまがた学生情報局」連携協定（13面）	学生	山形新聞
4/5	学生目線で企業を紹介　公益大発行冊子第6号　高校3年生に配布へ（12面）	学生	山形新聞
4/11	庄内地域の企業の魅力　若手社員らに取材まとめる　公益大生「ハタラクカタチ」冊子作成（1面）	学生	荘内日報